

所属・氏名（総合リハビリテーション学部 リハビリテーション学科 氏名：福岡 達之）

著書、学術論文等の名称	単著 共著 の別	発行又は発表 の年月	発行所、発表雑誌 等又は発表学会等 の名称	概 要
1 (学術論文) 嚥下障害患者に対する随意 咳嗽の空気力学的測定と誤 嚥の関連. 《筆頭論文》	共著	2011	言語聴覚研究 8(3): 131-138.	嚥下障害患者の咳嗽を空気力学的に測定し、 嚥下造影検査による誤嚥との関係について検 討した。誤嚥の重症度が高い患者では、咳嗽 の最大流速、加速度、立ち上がり時間など呼 気相に障害を認めることを明らかにした。 (福岡達之, 川阪尚子, 野崎園子, 寺山修史, 福田能啓, 道免和久)
2 (学術論文) 呼吸抵抗負荷トレーニング による舌骨上筋群の筋力強 化に関する検討. 《筆頭論文》	共著	2011	日本摂食・嚥下リハ ビリテーション学 会雑誌 15(2): 174-182.	嚥下障害に対する新しい訓練法として、呼吸 筋トレーニング (EMST) の有効性を筋電図 学的に検討した。EMST 時には、他の嚥下手 技と比較し、高い筋活動が得られ周波数成分 も高帯域であった。 (福岡達之, 杉田由美, 川阪尚子, 吉川直子, 野崎園子, 寺山修史, 福田能啓, 道免和久)
3 (学術論文) Effect of the effortful swallow and the mendelsohn maneuver on tongue pressure production against the hard palate. 《筆頭論文》	共著	2013	Dysphagia 28(4): 539-547.	嚥下手技の Effortful Swallow (ES) を行っ た時の舌口蓋接触様相を舌圧センサシートシ ステムにより測定した。他の嚥下手技と比較 し、ES 時には全ての口蓋部位において高い嚥 下時舌圧が産生されることを明らかにした。 (Fukuoka T, Ono T, Hori K, Tamine KI, Nozaki S, Shimada K, Yamamoto N, Fukuda Y, Domen K.)
4 (報告・発表) Differences in tongue pressure during swallowing in variations of the chin-down posture. 《筆頭発表者》	共著	2014	Dysphagia Research Society 22th Annual Meeting. USA	頭頸部肢位の違いが嚥下時の舌口蓋接触に及 ぼす影響について、舌圧センサシートシステ ム (SwallowScan) と舌骨上筋群の表面筋電 図を用いて検討した。 (Fukuoka T, Nozaki S, Ono T, Saito S, Hori K, Kodama N, Domen K.)
5 (著書) 言語聴覚士のための摂食嚥 下リハビリテーション Q&A -臨 床が分かる 50 のヒント- 《編著》	共著	2016	協同医書出版社	臨床家の言語聴覚士向けに摂食嚥下障害の評 価、訓練、疾患別による対応など 50 の項目を取 り上げて解説した。本書の企画、構成および編 集を主導した。総ページ数:169 頁 (福岡達之編著)